

第三のみち 人は脱皮し続ける

永田 円了

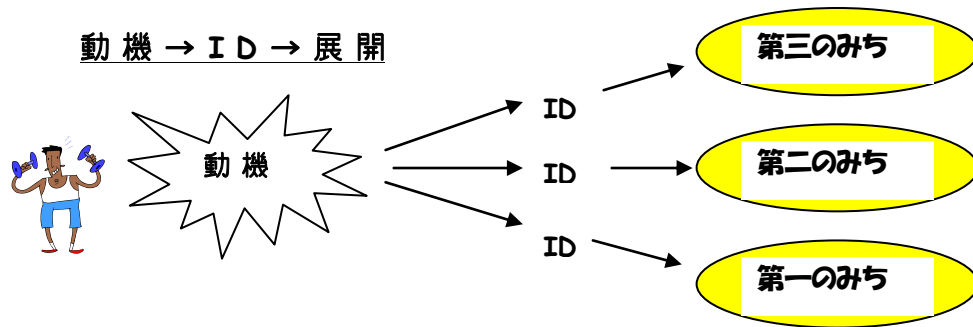


人の脱皮とは如何なるものなのだろうか。昆虫、爬虫類は、脱皮することで成虫になっていく。また、脱皮しないと古い表皮の中で死を迎える。この生物界は、生きていくためには否応なしに脱皮(=変化)を強いられているのである。

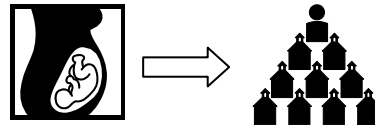
ところが人間はどうか。母親の胎内で十月十日、そして外界へ出る(第一の脱皮)。しかし、その後もずっと親に守られて育っていく。ではある年数がたてば自動的に、昆虫の脱皮のような機会が訪れるのであろうか。悲しいかな、人間の場合は、自分の意志で脱皮の機会を得る以外にその術を知らない。この意味では、人間は過酷なまでに自由が与えられているのである。

人は脱皮しなくても生きていける。しかしそれは下手をすれば、「引きこもり」や「ニート」となって現存することとなる。では人間にとって脱皮し続けるためには何が必要なのか。

意識を無意識から引き上げることである。外界よりも内界を大切にすることである。いま、この瞬間、わたしの心は平和だろうか。いま、この瞬間、わたしの内面で何が起きているのだろうか、と問うてみることである。内界のど真ん中に鎮座する“いのち”の存在と繋がったとき、人は外界でのシーソーゲームをやめる。



① **第一のみち**：集団意識 (T.I)
守られている、与えられるのを待つ、
がまん、がまん、がまん…、退職したら、か口癖



② **第二のみち**：個人意識 (P.I)
外に出る、私たちが私に、マイウエイ、
個人の才能が花開く、自己中心のライフスタイル



③ **第三のみち**：象徴意識 (Aha!)
意味を問う、他者との関係、人を支援、
コーチング能力を高めて出かけて行く、



事例

海ガラスの巣立ち (人間以外の生物は甘やかされない)
ある信用金庫の事例、カドがない、顔がない、癖もない
組織を飛び出し、タイへ行く幸峰さん (第一のみち→第二のみちへ)
ブッシュ大統領、日本の国会で演説『競争』2002年
ホイットニー・ヒューストンさん、享年48歳、第二のみちで燃え尽きる
美輪明宏、三島由紀夫を語る 第一のみちから第二のみちへ
財前教授の総回診 (『白い巨塔』より) (第一、第二のみち、ピラミッド型組織)
宍田泰敏、囲碁9段、もう一つの顔
ビクター・フランクル語る、『夜と霧』内界の自由
歌・エルビス・プレスリー An American Trilogy

